

CASBEE®

熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	熊本支社	階数	地上1F	
建設地	熊本県熊本市西区春日三丁目818番	構造	S造	
用途地域	商業地域・近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	99 人	
気候区分		年間使用時間	6,935 時間/年	
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2018年2月 0.0	評価の実施日	2017年6月26日	
敷地面積	4,874 m ²	作成者	米丸和寿	
建築面積	3,082 m ²	確認日	2017年6月26日	
延床面積	3,066 m ²	確認者	南浦琢磨	

1CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

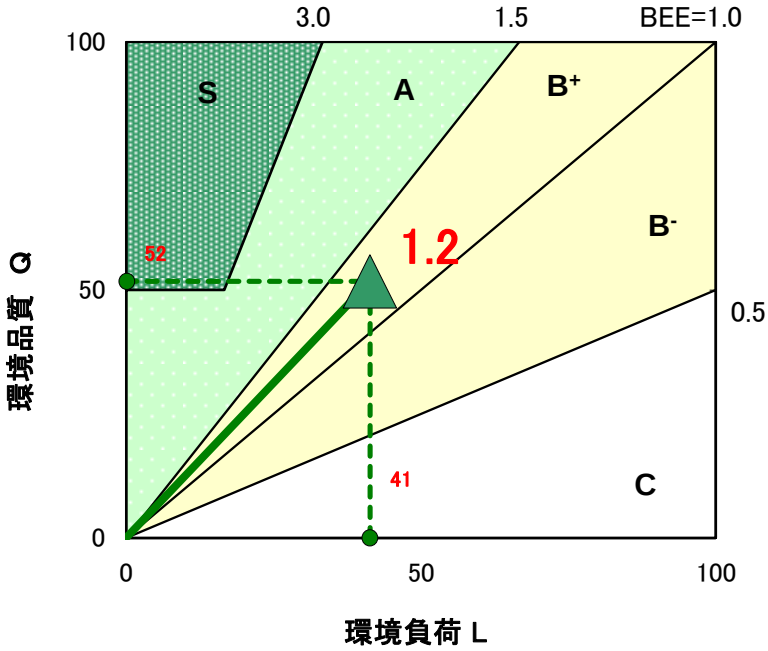
★★★★★

★★★★

★★★

★★

★



■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆

BEE = 1.2

■BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

排出率

92%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



79

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

85.0

48.7

80.0

94.5

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	    
80点以上100点未満	   
60点以上80点未満	  
40点以上60点未満	 
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

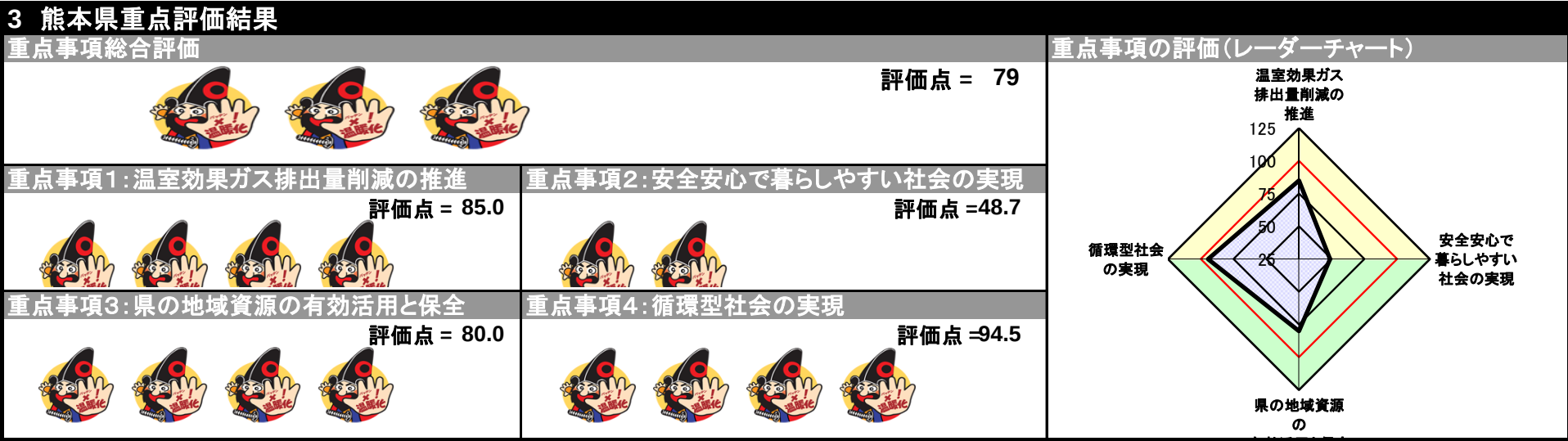
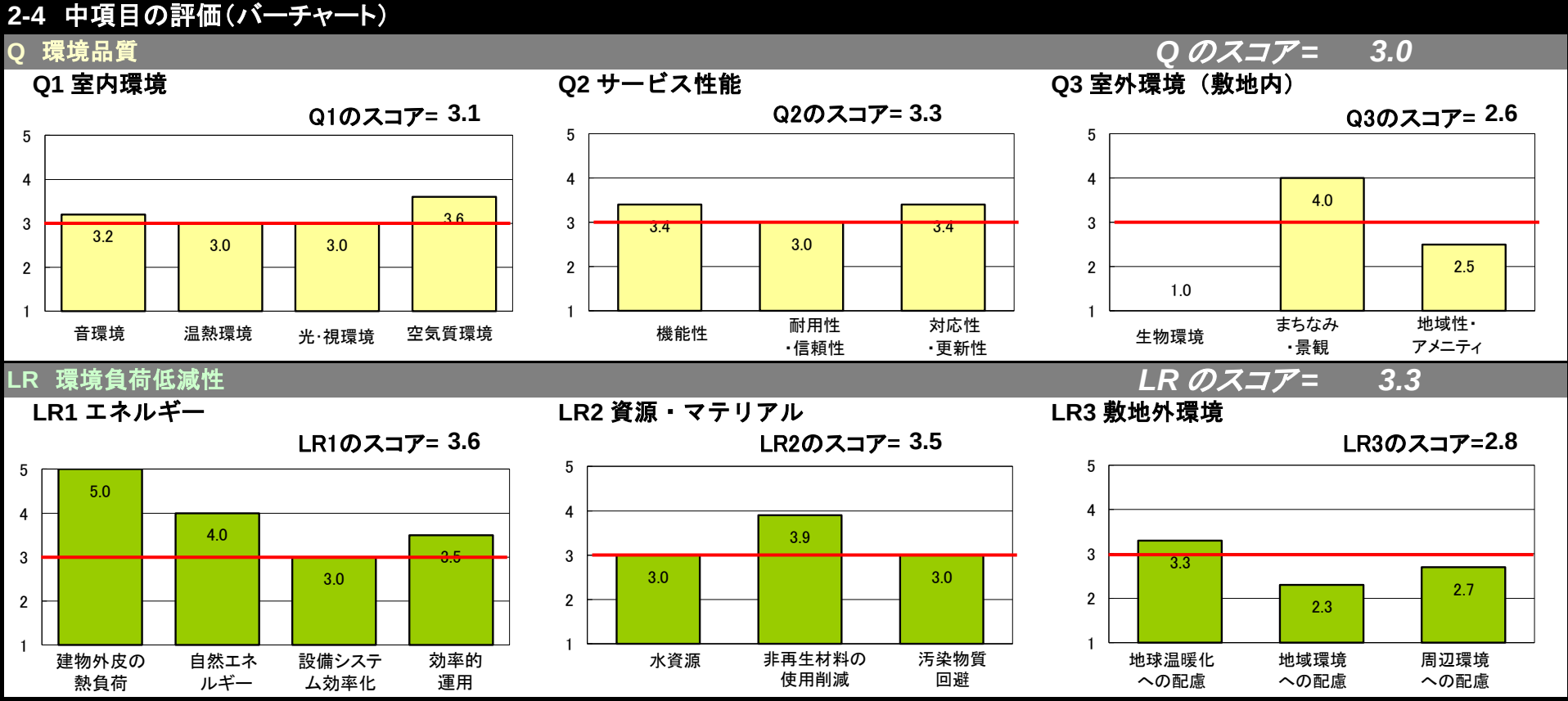
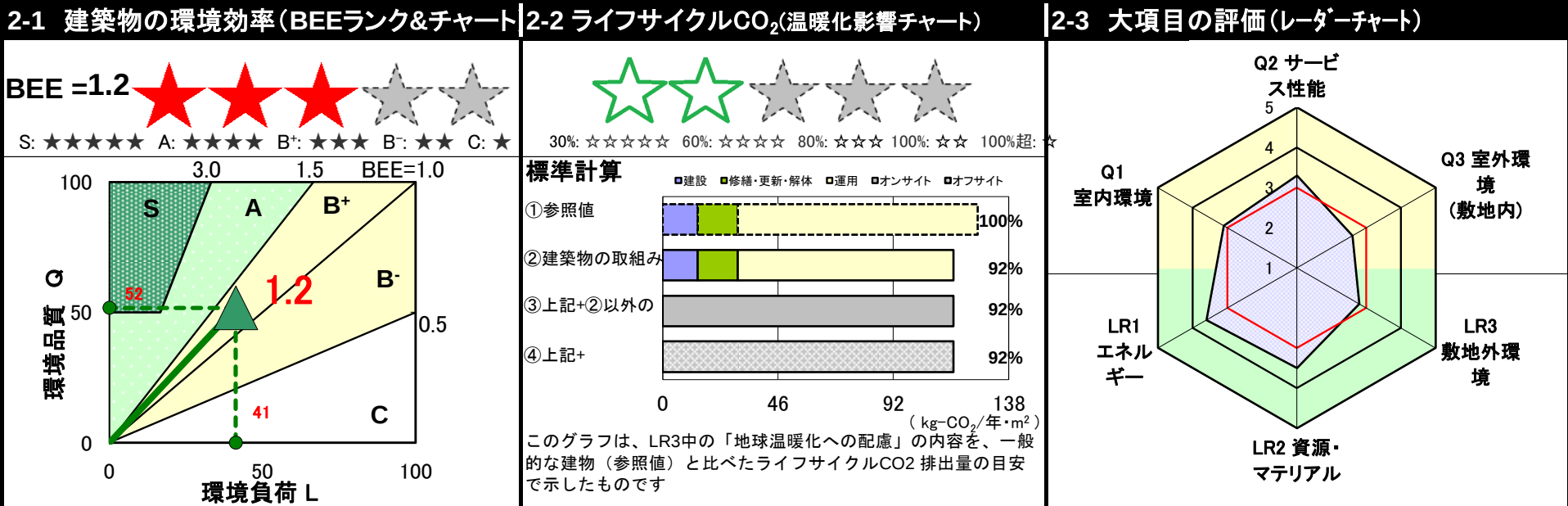
Page : 1/6

Sheet : 1/5

CASBEE®熊本《新築》評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	熊本支社	階数		
建設地	熊本県熊本市西区春日三丁目818番地	構造		
用途地域	商業地域・近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員		
気候区分		年間使用時間		
建物用途	事務所	評価の段階		
竣工年	2018年2月 0.0	評価の実施日		
敷地面積	4,874 m ²	作成者		
建築面積	3,082 m ²	確認日		
延床面積	3,066 m ²	確認者		



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版 熊本支社			欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)					
スコアシート 実施設計段階										
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
					評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									3.0	
Q1 室内環境						0.40		-	3.1	
1 音環境					3.2	0.15	-	-	3.2	
1.1 騒音			乗務センター天井:岩綿吸音板、床:タイルカーペット		3.0	0.40	-	-		
1.2 遮音					3.0	0.40	-	-		
1					開口部遮音性能	3.0	0.60	3.0		-
2					界壁遮音性能	3.0	0.40	3.0		-
3					界床遮音性能(軽量衝撃源)	3.0	-	3.0		-
4					界床遮音性能(重量衝撃源)	3.0	-	3.0		-
1.3 吸音					4.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境					3.0	0.35	-	-	3.0	
2.1 室温制御			光ダクト、トップライト		3.0	0.50	-	-		
1 室温					3.0	0.38	3.0	-		
2 外皮性能					3.0	0.25	3.0	-		
3 ゾーン別制御性					3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御					3.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式					3.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境					3.0	0.25	-	-	3.0	
3.1 昼光利用			F☆☆☆☆の採用		3.2	0.30	-	-		
1 昼光率					2.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口					-	-	3.0	-		
3 昼光利用設備					5.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策					3.0	0.30	-	-		
1 昼光制御					3.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度					3.0	0.15	3.0	-		
3.4 照明制御					3.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境					3.6	0.25	-	-	3.6	
4.1 発生源対策			自然換気:室面積の1/20以上確保(開放可能な窓ある居室)		4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質					4.0	1.00	3.0	-		
2 アスベスト対策					-	-	-	-		
4.2 換気					3.3	0.30	-	-		
1 換気量					3.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能					4.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.33	3.0	-		
4.3 運用管理					3.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視					3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御					3.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	3.3	
1 機能性					3.4	0.40	-	-	3.4	
1.1 機能性・使いやすさ			事務所天井高:3450~4350、乗務センター天井高:3000 リフレッシュスペース:108.047㎡(全体の3.5%)、自販機置場を計画 CLTを積極的に用いて、可能な部分は極力CLT現しとする		2.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性					3.0	0.33	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応					2.0	0.33	3.0	-		
3 バリアフリー計画					1.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性					4.6	0.30	-	-		
1 広さ感・景観					5.0	0.33	3.0	-		
2 リフレッシュスペース					5.0	0.33	-	-		
3 内装計画					4.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理					4.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計			塩ビシートの床材、水切り・笠木の設置、鉄部は溶融亜鉛メッキ		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保			合羽干し場を設けた計画、ゆとりのあるゴミ置場を設置		4.0	0.50	-	-		
3 衛生管理業務					-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性					3.0	0.30	-	-	3.0	
2.1 耐震・免震			床:塩ビシート、塩ビタイルなど、壁・天井:ボード		3.0	0.50	-	-		
1 耐震性					3.0	0.80	-	-		
2 免震・制振性能					3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数					3.2	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					5.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.20	-	-		

	2.4 信頼性			3.0	0.20	-	-	
	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.4	0.30	-	-	3.4
	3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	水下梁天4.0m以上	5.0	0.60	3.0	-	
	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.23	4.0	0.40	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
	3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			在来線熊本駅の防風スクリーンの色合いにそろえたルーバーのファ	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	マンホールトイレの設置	4.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上		1.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.69	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			光ダクト	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化			BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) 0.83	3.0	0.50	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価(3a.3b)			3.0	1.00	-	-	
	集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
4 効率的運用				3.5	0.20	-	-	3.5
	集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	室内温熱環境のモニタリング	4.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
	4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護				3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.9	0.60	-	-	3.9
	2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		間柱・小梁には電炉鋼材(SS400,SSC400)を採用する。	5.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		再生クラッシュラン、磁器質タイル、合板、木毛セメント板など	5.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGS間仕切り壁	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
	1	消火剤		-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
	LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-
1 地球温暖化への配慮				3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮				2.3	0.33	-	-	2.3
	2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
	2	污水处理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.7	0.33	-	-	2.7
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	-	-	-	
	1	騒音		-	-	-	-	
	2	振動		-	-	-	-	
	3	悪臭		-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.67	-	-	
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
	3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			2.3	0.33	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	屋外広告物照明を行っていない	2.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

CLTを積極的に用いた建物デザイン

Q1 室内環境

内装材は原則F☆☆☆☆材の利用

Q2 サービス性能

事務室は土木柱廻りを除いた無柱空間

通信設備の引き込みにはケーブルラックを敷設し、複数のキャリアから引き込みできるようにするとともに、将来の増設・更新にも容易に対応できる計画とした。

Q3 室外環境（敷地内）

高架下の歩行空間を確保（雨に濡れない）

LR1 エネルギー

同じ用途の部屋をCLT造とS造のそれぞれの部分に設置し、室内環境測定を行う計画
照明設備の光源には、効率のよいLEDを採用

LR2 資源・マテリアル

CLTパネルには九州産材を利用

LR3 敷地外環境

在来線熊本駅の防風スクリーン（武者返し）と同様の色味のルーバーを設置したファサードとし、周辺地域の景観と調和するよう配慮

その他

特に無し

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 熊本支社

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		79
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				85	0.40	34.00
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	5.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	4.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	2.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				48.7	0.20	9.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	1.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				80	0.20	16.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				94.5	0.20	18.90
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数